名古屋市蓬左文庫　展示室　企画展

〔Thematic Exhibition〕
Enjoying *Hina* Dolls – Doll Displays of Respected Old Families of the Region –

ひなを楽しむ －旧家のひな飾り－

2024.2.3 (土) ～ 2024.4.3 (水)

主催：名古屋市蓬左文庫・徳川美術館

江戸時代以降の町なかを飾ったお雛さまは、尾張徳川家に伝えられた、大名家ならではの豪華で格式のある雛とは趣（おもむき）が異なり、素朴で身近な親しみやすさが感じられます。近年、徳川美術館に寄贈された江戸時代から昭和に至る様々なお雛さまを紹介します。

古今雛

江戸～明治時代のひな

◈ 初公開

名 称		時 代	世 紀	所蔵者
・次郎左衛門雛		江戸～明治	19	個人
◈ ・享保雛		江戸	18 ～ 19	個人
・享保雛	志賀直哉旧蔵	江戸	18 ～ 19	個人
・享保雛		江戸	19	
・古今雛・随身	伊藤家寄贈	江戸	19	
・古今雛	鈴木綾子氏寄贈	江戸～明治	19	
・古今雛		江戸～明治	19	

次郎左衛門雛（じろうざえもんびな）

京都の人形師・雛屋次郎左衛門が製作したといわれます。まるで物語の絵に登場する貴族のような丸い顔に、小さな口と細い目元（引き目）、小さな鼻（鉤鼻（かぎばな））が特徴で、江戸時代中期頃に登場したといわれています。古雅な面差しがとりわけ上流層の間で好まれ、公家や大名家、門跡尼寺（もんぜきあまでら）（皇族・貴族の子女が入寺する寺院）に伝わる作品も知られています。

享保雛（きょうほうびな）

江戸時代中期の享保年間(1716～36)頃に誕生した町屋のお雛さまです。頭には髪が植えられ、装束には金襴（きんらん）や錦（にしき）などの豪華な裂（きれ）が使用されています。男雛は束帯風に、女雛はいわゆる十二単（じゅうにひとえ）風に作られています。高さが45センチ、ときには60センチを超える大型の享保雛も作られました。この形式のお雛さまは、明治時代まで作り続けられました。

古今雛（こきんびな）

明和年間（1764 ～ 72）頃に、江戸十軒店（じっけんだな）（現在の日本橋室町あたり）の人形師・原舟月（はらしゅうげつ）が作り始めたといわれているお雛さまです。男雛は束帯（そくたい）風に、女雛はいわゆる十二単（じゅうにひとえ）になぞらえた公家の装束を着用しています。

古今雛は当時としては高価な雛人形でしたが、好評を博し、江戸のみならず京都・大坂にまで流行しました。古今雛形式のお雛さまは明治時代以降、現在にまで受け継がれています。

古今雛・随身　伊藤家寄贈

明治・大正・昭和時代のひな

	名称		時代	世紀
	・御殿雛飾り	志村正氏・恵子氏寄贈	明治	19
	・御殿雛飾り	平山家寄贈	明治	19 ～ 20
◈	・御殿雛飾り	寺尾家寄贈	明治	19
	・御殿雛飾り	小見山家・柴田家寄贈	明治～昭和	20
◈	・内裏雛飾り	辻毘代子氏・村田久美子氏寄贈	明治～昭和	20
	・内裏雛飾り	近藤家寄贈	大正	20
	・御殿雛飾り	三上家寄贈	昭和 4 年＜1929 ＞	
	・内裏雛飾り	横井家寄贈	昭和 30 年代＜1955 ～ 64 ＞	

※所蔵者の表記がない作品は全て徳川美術館蔵 、「蓬左」は名古屋市蓬左文庫蔵

ひなの歴史

名 称		時 代	世 紀	所蔵者
・日本歳時記 4 冊の内	貝原好古著	江戸 貞享 5 年	<1688>	蓬左
・女訓絵入雛遊之記 上	西川祐信画	江戸 寛延 2 年	<1749>	蓬左
・絵本倭文庫	西川祐信画	江戸 享保 19 年～安永 5 年	<1734 ～ 76>	蓬左
・骨董集	山東京伝著	江戸	19	蓬左

日本各地のひな ―徳川義親（よしちか）コレクションより―

古くより身近な材料と伝統的な技法で作られ、日本各地で庶民に親しまれてきた玩具は、広く郷土玩具と呼ばれています。徳川美術館の創設者である尾張徳川家 19 代当主義親（1886 ～ 1976）は、郷土玩具の収集家としても知られ、その収集数は約 1000 点にも及んでいます。このコレクションには、土や紙はもちろん、銀杏・ヒシなど多様な材料で作られた各種の雛人形があります。

大正～昭和時代　２０世紀　個人蔵

・流雛 和歌山県粉河	・流雛 鳥取県	・土雛 埼玉県鴻巣市
・板雛 京都市鞍馬	・ヒシ雛 京都市	・瓢箪雛 京都市
・豆雛 大阪府	・竹雛 熊本県	・糸雛 鹿児島県

※所蔵者の表記がない作品は全て徳川美術館蔵 、「蓬左」は名古屋市蓬左文庫蔵